

平成30年度

由布市総合計画・重点戦略プラン

進捗状況評価報告書

～平29年度実施事業分～

総合計画審議会

(総合政策課)

総合計画(重点戦略プラン)の進行管理について

この報告書は、由布市第2次総合計画、とりわけ重点戦略プラン(13プラン)に係る行政の取り組み・進捗状況について、総合計画審議会(※外部有識者15名)による評価を実施し、今後の取組の方向性を定めるものとして活用する事を目的としています。

1. 進行管理の目的

第二次総合計画の策定方針にも掲げた1つである「進行管理、成果検証、課題分析、計画の見直しが着実に実施できる計画」に基づき、総合計画の実効性を担保するため、計画に掲載されている施策・事業の進行管理を適切に実施するための仕組みを構築し、計画の進捗状況を進行管理します。

<総合計画の特徴>

総合計画は、将来にわたって市民や行政など多様な主体の協働の基盤となる共通指針であり、第二次総合計画については次に掲げる特徴を持った計画として策定した。

- ①市民との協働による計画づくり
- ②わかりやすい計画
- ③実現性の高い計画
- ④進行管理を適切に実行できる計画づくり

2. 仕組みの構築

第二次由布市総合計画の策定時からの方針もあり、従来からの総合計画審議会の任務に加え、計画を進行管理する役割を追加し、由布市総合戦略も同時に行うことのできる進行管理機関として位置付けた。平成28年度をスタート年とし、本年の評価で2年度目

3. 進捗状況の検証

総合計画及び総合戦略の進捗状況管理を行う。

まず、行政内部においてPDCA サイクルマネジメントを実践するため、各担当部署で事務事業事後評価表を作成し内部評価を実施する。次に、総合計画審議会を開催し、作成した事務事業事後評価表をもとに担当部署も出席の上、審議会において計画の進捗状況について検証、分析を行う。

4. 検証の流れ

本年度の評価検証については、下記のとおり実施しました。

【実績】

日時	項目	内容
平成30年5月10日	平成30年度第1回 総合計画審議会 開催	今年度の審議会開催内容等について
<p>本年度の評価について</p> <p>①前年度評価が低い2プロジェクト及び審議委員希望する1プロジェクトは、担当課の説明</p> <p>②①以外のプロジェクトは事務局が一括説明とすることとなった。</p>		
5月11日 付	総務課より 各課へ「事務事業事後評価表」作成依頼	締切日 6月1日(金) ※各課において作成・内部評価①を実施
5月14日 付	総合計画審議委員へのアンケート実施 ①評価日程 ②評価(ヒアリング)対象プロジェクト について	締切日 6月11日(月)
5月30日 付	総合政策課(事務局)より 各課へ「外部評価(重点戦略プラン・総合戦略)に係る事前ヒアリングの実施について」通知	
6月11日	総合計画審議会アンケート(結果)により 開催日程:7月10日・11日 評価(ヒアリング)対象プロジェクト 1.②公共交通(前年度評価低) 2.⑧仕事づくり(委員希望) 3.⑬由布ツーリズム(前年度評価低)	※7月10日(火) (ヒアリング)3プロジェクト 7月11日(水) (事務局説明)他10プロジェクト
6月25・27～29日	事前ヒアリング(内部評価)を実施	
7月10・11日	平成30年度第2・3回 総合計画審議会 開催	プラン1～13について 実施状況を説明・ヒアリング
8月22日	平成30年度第4回 総合計画審議会 開催	評価報告書(案)の確認

5. 検証手法

(1)検証の対象

第二次総合計画では、将来都市像を実現するため、6つの『まちづくりのテーマ』に14の『施策分野』、17の『施策目標』を掲げているが、進行管理を行うにあたっては、重点戦略プランを構成する13のプロジェクトについて検証を行うものとする。

(2)進捗状況の評価

市民の視点から評価する「市民意識調査」と、定量的・客観的で分かりやすい「客観指標評価」の二つの手法を用いて、客観、主観の両面から進捗状況の検証を行う。

また、「行政の取組状況」の結果と併せ、事前に行政内部において計画の進捗状況の検証、分析を行い、内部評価を実施し、外部評価委員会(総合計画審議会)において内部評価に至った経緯やその分析結果についてヒアリングを行い、今後の取組の方向性や審議会からの意見を付した上で、各分野の進捗状況を最終評価する。

①市民意識調査(平成29年度調査分)

総合計画の現状について、市民がどのように感じているかを尋ねる市民意識調査を実施し、その結果に基づいて5段階評価を行う。評価に市民の実感、満足度という尺度を加えた市民による評価としている。

① 市民意識調査結果 評点表			
「市民意識調査」(直近)結果での、該当項目に係る「重要度」「充足度」に対し平均値(四捨五入)			
重要度	平均点数	充足度	平均点数
重要	5点	充分	5点
やや重要	4点	やや充分	4点
あまり重要でない	3点	やや不充分	3点
重要でない	2点	不充分	2点
分からない	1点	わからない	1点

②客観指標評価

重点戦略プランの13のプロジェクトに掲げている「目標」の実現に向けて、その達成度合いを測るモノサシとなる客観的に数値化している指標を設定している。客観指標の達成度により5段階で評価する。

②客観指標結果 評点表

「事務事業評価調書」に記載されている成果指標1つに対し

達成率	点数
90%以上	5点
60%～90%未満	4点
30%～60%未満	3点
10%～30%未満	2点
0%～10%未満	1点

指標が2つ以上ある場合は、それぞれに点数を付し、平均点(四捨五入)で換算する。

平均点数	評価	評価内容
5点	A	目標が十分に達成されている
4点	B	目標がかなり達成されている
3点	C	目標が概ね達成されている
2点	D	目標があまり達成されていない
1点	E	目標が達成されていない

③行政の主な取組状況

「目標」の実現のために市が取り組む主要な事業(重点戦略プラン)について、当年度末の成果指標を各々検証し、各担当部局において設定した目標の達成状況から自己評価を行う。

③行政取組状況結果 評点表

「事務事業評価調書」に記載されている2次評価結果により

点数	評価	評価内容
5点	A	継続して事業実施
4点	B	見直して事業実施
3点	C	休止
2点	D	終了
1点	E	廃止

④総合評価

①市民意識調査、②客観指標評価、③行政の取組状況を踏まえて、「目標」にどれだけ近づいているか、かつ社会情勢等を総合的に勘案し、「目指す姿」への実現に向けて設定した目標へのどの程度進捗しているかを下記A～Eの5段階評価で内部評価を行う。

④総合評価		
①～③の合計点		
合計点	総合評価	評価内容
17点以上	A	事業・取組が十分に達成されている
12～16点	B	事業・取組がかなり達成されている
8～12点	C	事業・取組が概ね達成されている
4～7点	D	事業・取組があまり達成されていない
1～3点	E	事業・取組が達成されていない

⑤総合計画審議会の意見

審議会において取組内容・進捗状況やその分析結果をヒアリングし、審議会としての意見を付す、あるいは理由を付した上で、最終的な進捗状況の評価を行う。

⑤審議会委員 評点表		
審議会委員の評点の平均点		
点数	評価	評価内容
5点	A	事業・取組が十分に達成されている
4点	B	事業・取組がかなり達成されている
3点	C	事業・取組が概ね達成されている
2点	D	事業・取組があまり達成されていない
1点	E	事業・取組が達成されていない

⑥最終判定

⑥最終評価		
④総合評価及び⑤審議会委員評価の合計		
合計点	総合評価	評価内容
21点以上	A	計画が十分に達成されている
16～20点	B	計画がかなり達成されている
11～15点	C	計画が概ね達成されている
6～10点	D	計画があまり達成されていない
1～5点	E	計画が達成されていない

由布市 総合計画 重点戦略プラン 評価結果 年次推移表 及び 評価結果まとめ

1 総合評価(市民意識+客観指標+内部評価)

プラン	プラン名	評価年度									
		H29		H30		H31		H32		H33	
		点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定
1	地域防災力強化プロジェクト	17	A	17	A						
2	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト	14	B	14	B						
3	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト	15	B	15	B						
4	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト	15	B	16	B						
5	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト	17	A	16	B						
6	『由布の学び』創造プロジェクト	16	B	16	B						
7	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト	14	B	15	B						
8	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり	16	B	14	B						
9	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト	14	B	15	B						
10	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト	15	B	15	B						
11	由布ならではの移住・定住プロジェクト	15	B	15	B						
12	地域プロモーション推進プロジェクト	17	A	16	B						
13	ゆふツーリズム推進プロジェクト	10	C	14	B						

合計点	判定	評価内容
17点以上	A	事業・取組が十分に達成されている
12～16点	B	事業・取組がかなり達成されている
8～12点	C	事業・取組が概ね達成されている
4～7点	D	事業・取組があまり達成されていない
1～3点	E	事業・取組が達成されていない

2 審議会評価

プラン	プラン名	評価年度									
		H29		H30		H31		H32		H33	
		点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定
1	地域防災力強化プロジェクト	3	C	3	C						
2	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト	3	C	3	C						
3	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト	3	C	3	C						
4	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト	4	B	4	B						
5	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト	4	B	4	B						
6	『由布の学び』創造プロジェクト	4	B	4	B						
7	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト	3	C	3	C						
8	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり	3	C	3	C						
9	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト	3	C	3	C						
10	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト	3	C	3	C						
11	由布ならではの移住・定住プロジェクト	4	B	3	C						
12	地域プロモーション推進プロジェクト	3	C	3	C						
13	ゆふツーリズム推進プロジェクト	2	D	3	C						

点数	判定	評価内容
5点	A	事業・取組が十分に達成されている
4点	B	事業・取組がかなり達成されている
3点	C	事業・取組が概ね達成されている
2点	D	事業・取組があまり達成されていない
1点	E	事業・取組が達成されていない

3 最終評価

プラン	プラン名	評価年度									
		H29		H30		H31		H32		H33	
		点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定	点数	判定
1	地域防災力強化プロジェクト	20	B	20	B						
2	みんなで守り育てる公共交通活性化プロジェクト	17	B	17	B						
3	“市民が主体！！”コミュニティ活性化プロジェクト	18	B	18	B						
4	地域へ飛び出せ！健康マイレージプロジェクト	19	B	20	B						
5	子どもたちを包み込む支えあい・助けあいプロジェクト	21	A	20	B						
6	『由布の学び』創造プロジェクト	20	B	20	B						
7	食からはじめる健康づくり。食と農の再発見プロジェクト	17	B	18	B						
8	次世代につなげよう、持続可能な仕事づくり	19	B	17	B						
9	滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト	17	B	18	B						
10	民官学の協働による豊かな水環境創出プロジェクト	18	B	18	B						
11	由布ならではの移住・定住プロジェクト	19	B	18	B						
12	地域プロモーション推進プロジェクト	20	B	19	B						
13	ゆふツーリズム推進プロジェクト	12	C	17	B						

1総合評価 + 2審議会委員評価の合計

合計点	判定	評価内容
21点以上	A	計画が十分に達成されている
16～20点	B	計画がかなり達成されている
11～15点	C	計画が概ね達成されている
6～10点	D	計画があまり達成されていない
1～5点	E	計画が達成されていない

まとめ

～平成29年度事業に係る総合計画(重点戦略プラン)の評価について(まとめ)～

今回で、2回目となる評価を実施しました。各プランの評価については別紙のとおり報告しておりますが、全体を通して以下の意見が多かったので今後の改善をお願いします。

①計画の見直しの必要性

平成27年度中に計画が策定されましたが、現在の状況とそぐわない指標や方向性が見えにくい取り組みもありました。計画に沿って取り組みを進めていることは十分に理解できますが、評価を実施するにあたり、評価しづらい取り組みもありましたので、必要に応じて計画の見直し等の必要性があるといえます。

②実施体制の確保

計画策定後、新たな組織が設立され、行政内部の連携と併せて実施主体がどこにあるのか、分かりにくい事がありました。「新たな組織がどのような業務を担うのか？」という事について、早期に明確化する必要があるといえます。

また、プロジェクトによっては、行政(市役所)内部の連携が十分でない又は団体活動のみとなっている状況がうかがえます。市民のニーズを把握して、十分な実施体制の確保を求めます。

③情報の発信

昨年度評価の際にも、お願いしましたが、行政の取り組みを市民・受益者により多く知ってもらう活動をさらに活発化してもらう必要があるといえます。情報の発信は、市民との協働の第1歩と思われるので改善を期待します。

重点戦略プラン 個別評価調書

～平成29年度事業実施分～

地域防災力強化プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月11日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域防災推進事業」等		説明担当課 事務局

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	32点	47点			
審議会評点 (平均点)	3点 (3.2)	3点 (3.1)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・防災意識・質・備えの水準を落とさないことは評価できる。
- ・自主防災組織数や訓練回数の150組織には無理があるのでは？
- ・指標の数値はあまり変化がない、指標②も伸びが小さい？

2) 今後の取組に期待すること

- ・防災組織のない自治区の検証を行い、組織づくりについて積極的指導を求める。
- ・昨年度意見の出ていた防災士と消防団の連携、特に防災士(防災士会等)の活動が目に見える(機能性を示すなど)、行政としてフォローアップを求める。
- ・複数の自治区で1つの消防団を作っているケースを想定して、組織数のカウント方法や、目標値を見直すべき。

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	5点	問14「災害等の対応 防災対応」	速報値 平均値 4.47
①市民意識 (充足)	3点	問14「災害等の対応 防災対応」	速報値 平均値 2.92
②客観指標結果	4点 (3.5)	(3点) 自主防災組織数 H26年度 119組織	目標 H30年度時点で 150組織 実績 H29年度時点 64組織
		(3点) 防災士配置自治区数 H26年度 69地区	目標 H30年度時点で 150地区 実績 H29年度時点 85地区
		(3点) 防災訓練・研修回数 H26年度 50回	目標 H32年度は 150回 実績 H29年度 50回
		(5点) 防災教育回数 H26年度 2回	目標 H32年度時点で 4回 実績 H29年度時点 5回
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	17点		
⑤審議会 評点	3点	事業・取組が概ね達成されている。	
④+⑤合計点	20点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

みんなで守り育てる 公共交通活性化プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月10日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	地域公共交通事業		説明担当課 総合政策課

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	25点	38点			
審議会評点 (平均点)	3点 (2.5)	3点 (2.5)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・計画策定の段階なので、経過の中での評価となる。計画づくりの過程が重要だが、アンケート(利用者ヒアリング)だけではニーズが掴めない
- ・現行での取り組みでは利便性を向上し、利用者を増やすのは限界がある。利用者ニーズに応えるためにも全体のプロジェクトの見直しが必要と思われる
- ・成果指標に利用者数を掲げたのは良い。公共交通維持のため、デマンド方式を成功させて頂きたい。健康温泉館水中運動参加者へ帰りの無料券を交付することは健康マイレージと連携しており良い取り組みである。他の事業でも無料券を交付して、お得感を出しても良いのでは？

2) 今後の取組に期待すること

- ・自治区の将来・現況(人口・世帯・特性・高齢化)を示した上で、要望だけではなく自治区の今後を考える機会にして、それをまちづくり戦略に反映させて地域公共交通の再編に取り組んでほしい。小さな拠点づくりの方向性も同時併行で検討し、往復路の目的地づくりに着手してもらいたい
- ・効率的事業であることに越したことはないが、地域の足は重要であり、住民の声ニーズを把握しながら柔軟に取り組んでほしい
- ・数値のみの判断では、目標値からかなり下振れしている。説明についても実績につながるものがなく、事業の抜本的な見直しも必要なのかもしれないが評価を受けるための審議会であることを意識してもらいたい
- ・目標値として「収支率」をどのように取り扱うのかを検討してもらいたい。

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考	
①市民意識 (重要)	4点	H29年版「市民意識調査」 問17『公共交通網の充実』	速報値 平均値 4.08	
①市民意識 (充足)	3点	H29年版「市民意識調査」 問17『公共交通網の充実』	速報値 平均値 2.81	
②客観指標結果	3点 (2.5)	-	収支率20%未満の路線数 H26年度 25路線	目標 H32年度時点で 0路線 実績 H29年度時点で 25路線
		-	収支率20%以上の路線について、収支率5%アップ H26年度 0路線	目標 H32年度時点で 2路線 実績 H29年度時点で 0路線
		-	無償運送もしくは自家用有償運送等導入検討地区 H26年度 0地区	目標 H32年度時点で 3地区 実績 H29年度時点で 0地区
		(1点)	収支率20%以上の路線数	目標 H32年度時点で 32路線 実績 H29年度時点で 1路線
		(4点)	年間利用者数	目標 年間 45,000人 実績 H29年度 38,506人
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施		
④合計点 (総合評価)	14点			
⑤審議会 評点	3点	事業・取組が概ね達成されている		
④+⑤合計点	17点			
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている		

“市民が主体!!” コミュニティ活性化プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月11日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域コミュニティ形成促進事業」等		事務局

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	※30点	44点			
審議会評点 (平均点)	3点 (3.0)	3点 (2.9)			

※平成29年度に評価した事業については、プラン12の評価へ変更【移動】した。

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・由布コミュニティ事業に粘り強く取り組んでいることを評価したい。
- ・地域の内発性・自立性が大事なのであまり急がせる目標にしばられる必要はないと思いますが、マンパワーが1人では厳しいのでは？

2) 今後の取組に期待すること

- ・他地域が取り組めるよう、情報提供はもちろん、地域の実情を含めた行政の支援が望まれる
- ・地域コミュニティについて事例が少ないので評価しにくい、これから地域を拡げてもらいたい。
- ・健康増進課・介護予防事業との関連性と連携が必要では？

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	問10『地域コミュニティ組織活動』	速報値 平均値 3.78
①市民意識 (充足)	3点	問10『地域コミュニティ組織活動』	速報値 平均値 2.94
②客観指標結果	3点	(2点) 地域協議会設立	目標 H31年度時点で 5地区 実績 H29年度末時点 1地区
		- 地域行事参加者 H26年度 37.3%	目標 H31年度時点で50%
		- 連携による事業実施数	目標 H31年度時点で 5件
		(2点) 地域ビジョンの作成と実行	目標 H31年度 5地区 実績 H29年度 1地区
		(3点) 地域振興計画の策定	目標 毎年 3地区 実績 H29年度 1地区
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	15点		
⑤審議会 評点	3点	事業・取組が概ね達成されている	
④+⑤合計点	18点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

地域へ飛び出せ！ 健康マイレージプロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月11日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「健康立市推進事業」等		説明担当課 事務局

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	39点	53点			
審議会評点 (平均点)	4点 (3.9)	4点 (3.5)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・応募者数が増加している事は非常に良い事だと思う、今後も積極的に取り組んでいく事業の1つだと思う。
- ・広報が十分でないように思う。マイレージの集め方等何かの方法で市民が楽しみながら出来ればと思う。
- ・健康立市に重要な事業であり、参加者の増加に向け 調査・分析もしながら取り組んでいただきたい

2) 今後の取組に期待すること

- ・若年層や男性等にも関心をもってもらう 広報・宣伝が必要と考える。(地域性を考慮して)
- ・高齢者＝紙媒体 若年層＝電子媒体という傾向があるので、電子媒体に力をいれることは費用的にも高くないと予想される。現状維持で粘り強く、取り組んでほしい最終目標は保険料の軽減だと思うので、その成果が表れることを期待したい。
- ・1万点に到達しない人/取り組んでいる方の把握等を検討しては？
- ・事業所への取組を検討しては？

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	H29年版「市民意識調査」 問24『地域での健康づくり』	速報値 平均値 4.21
①市民意識 (充足)	3点	H29年版「市民意識調査」 問24『地域での健康づくり』	速報値 平均値 3.35
②客観指標結果	4点 (3.6)	(4点) 健康マイレージ対象事業数 H27年度 27事業	目標 H32年度時点 50事業 実績 H29年度時点 35事業
		(3点) 健康マイレージ応募者数 H26年度 316名	目標 H32年度時点 1,500名 実績 H29年度時点 813名
		(4点) 健康づくりリーダー派遣者数 H26年度 延474名	目標 H32年度時点 700名 実績 H29年度時点 506名
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	16点		
⑤審議会 評点	4点	事業・取組がかなり達成されている	
④+⑤合計点	20点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

子どもたちを包み込む 支えあい・助けあいプロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月11日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域子育て支援づくり事業」等		説明担当課 事務局

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	36点	55点			
審議会評点 (平均点)	4点 (3.6)	4点 (3.6)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・居場所づくり、サポーター養成とも順調
- ・サポーターへのニーズは多い？ マッチングが大変そう 昨年度出ていた サポーターの交流・定期研修は？
- ・サポーターの数の増加は大変良いと思います。利用ニーズの把握が必要かと思ひます。
- ・医療費の補助や、病児保育施設の開設等すごいスピードで改善されていると思ひます。今後の利用拡大にも期待

2) 今後の取組に期待すること

- ・サポーター等 人的な支援の充実とともに、利用者のニーズに応えられる柔軟性も育ててほしい
- ・子育てサポート事業など、一定の成果が出ている。サポーターの継続的な活動につながるように現場における悩み相談等を行って欲しい

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	H29年版「市民意識調査」 問32『子育て支援活動』	速報値 平均値 4.22
①市民意識 (充足)	3点	H29年版「市民意識調査」 問32『子育て支援活動』	速報値 平均値 2.58
②客観指標結果	4点 (4.3)	(3点) 家族の日を推進	目標 年3回 実績 H29年度 1回
		(5点) 子どもの居場所づくり H27年度 20施設	目標 H32年度時点で 23施設 実績 H29年度末時点 21施設
		(5点) 子育てサポーターの養成	目標 H32年度時点で 50人 実績 H29年度末時点 82人
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	16点		
⑤審議会 評点	4点	事業・取組がかなり達成されて いる	
④+⑤合計点	20点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

『由布の学び』 創造プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月11日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地域と協働する学校づくり推進事業」 等		事務局
		説明担当課	

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	35点	55点			
審議会評点 (平均点)	4点 (3.5)	4点 (3.6)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・目標値に対して概ね達成されているが、学び検定30年度から目標達成に向けた取り組みを！
- ・子どもに対する施策としては良い。すべての子どもに対してはこれで良いと思うが、個性を伸ばしていく施策展開も必要。例えばこのプロジェクトの成果をもっと由布高校への育成やその成果に求めていっても良いと感じる。
- ・教育活動事業は、多数の方が講師として活動されているみたいで、良い事業だと思う。子供にも大人にも双方にとって大切な事業だと思う。

2) 今後の取組に期待すること

- ・教育委員会との連携は？大人向けの事業が弱い？地域づくり(自治区、校区単位)との連携も期待。
- ・連携型中高一貫教育については、高校教育の特色化、充実化を図り、社会に評価、求められる人材の育成に向け、さらに力を入れてほしい。

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考	
①市民意識 (重要)	4点	H29年版「市民意識調査」 問26『生涯における学び』	速報値 平均値 3.82	
①市民意識 (充足)	3点	H29年版「市民意識調査」 問26『生涯における学び』	速報値 平均値 2.95	
②客観指標結果	4点 (4.4)	(4点)	コミュニティスクール設置校数 H27年度 4校	目標 H31年度時点で 14校 実績 H29年度末 11校
		-	「子ども由布の学び検定」の実施	目標 H32年度時点で 30人
		-	読み聞かせを実施している家庭の割合 H26年度 81.4%	目標 H32年度時点で 90%
		(4点)	生徒(中学3年生)1人当たりの学校図書 貸出冊数	目標 1人あたり 20冊 実績 H29年度 17冊
		(5点)	公立図書館貸出冊数	目標 160,000冊 実績 H29年度 156,545冊
		(4点)	家庭教育支援講座 受講数 H26年度 85人	目標 H32年度時点で 135人 実績 H29年度 99人
	(5点)	地域人材派遣数 H26年度 564人	目標 H32年度時点で 600人 実績 H29年度 662人	
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施		
④合計点 (総合評価)	16点			
⑤審議会 評点	4点	事業・取組がかなり達成されて いる		
④+⑤合計点	20点			
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている		

食からはじめる健康づくり。 食と農の再発見プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月11日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「地産地消推進事業」等		説明担当課 事務局

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	34点	40点			
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.6)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・地産地消の取り組みは非常に良い事だと思う。
- ・品目増、補助上乘せ以外の打開策が必要だと感じる。カット野菜の活用などは可能性を考えたい。地元米を食べさせたいという意向を叶えられると良い。
- ・地産地消率向上のための工夫を。由布市米の消費率向上対策を考えることも必要と思う。

2) 今後の取組に期待すること

- ・次代を担う子どもが安心安全な地元産野菜で成長できるようさらに強力に推進してほしい。
- ・愛着度は計測方法がないので成果指標から外すべきである。規格がそろった農産物しか給食センターが受入しないのであれば、使用率ではなく、品目数の増加状況を成果指標とすべきである。
- ・対象品目の拡大を期待します。規格外の生産品も加工できるように出来ないものか？

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	H29年版「市民意識調査」 問35『農商観の連携』	速報値 平均値 3.60
①市民意識 (充足)	2点	H29年版「市民意識調査」 問35『農商観の連携』	速報値 平均値 2.36
②客観指標結果	4点	-	行事参加者数 目標 H32年度時点で 延1,000人
		(4点)	市内農産物使用率 H26年度 20.7% 目標 H32年度時点で 30% 実績 H29年度時点 20%
		-	市内産食材への愛着度 目標 H32年度時点で 50%
		(4点)	市内農産物使用率(金額ベース) H26年度 21% 目標 H32年度時点で 30% 実績 H29年度 20%
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	15点		
⑤審議会 評点	3点	事業・取組が概ね達成されている	
④+⑤合計点	18点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

次世代につなげよう、 持続可能な仕事づくりプロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月10日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	就農支援事業		説明担当課
	商工振興活性化事業		

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	34点	44点			
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.9)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・就農である程度成果がでている。
- ・創業支援等の取り組みは評価できる。そういった方々が継続発展していく為の取り組みも大事になってくるのでは？
- ・農業では一定の成果・職員・農家の姿勢 市のリース(農地提供)や継業(親子以外の継業)にも期待 創業は3件で面的なインパクトとしてどうか？

2) 今後の取組に期待すること

- ・創業支援事業補助金を受給できなかった4人目の申請者がその後どうなったのか？を調査し、30年度分として申請させるかどうか 等 も検討して頂きたい。
- ・由布市独自の「就農支援」「創業支援」のメリットがあれば、より効果的に発信し、周知を図る事が大切かと思えます。

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考	
①市民意識 (重要)	4点	H29年版「市民意識調査」 問33『農林畜産業の持続活動』	速報値 平均値 3.73	
①市民意識 (充足)	2点	H29年版「市民意識調査」 問33『農林畜産業の持続活動』	速報値 平均値 2.24	
②客観指標結果	3点 (3.4)	-	異業種交流会の開催数	目標 年/5回
		(5点)	就労・就農相談件数 年3件	目標 年/30件 実績 就農分)H29年度 35件
		(2点)	由布市内新規就労者数 年 5人	目標 年/25人 実績 (創業補助)H29年度 3人
		(2点)	研修先となる先進農家数 H27年度 3軒	目標 H32年度時点で 20軒 実績 H29年度 6軒
		(4点)	新規就農者数	目標 年/10人 H29年度 7人
		(4点)	就農研修生	目標 年/3人 H29年度 2人
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施		
④合計点 (総合評価)	14点			
⑤審議会 評点	3点	事業・取組が概ね達成されてい る		
④+⑤合計点	17点			
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている		

滞在型・循環型保養温泉地 実現プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月11日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「観光振興事業」等		説明担当課 事務局

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	26点	47点			
審議会評点 (平均点)	3点 (2.6)	3点 (3.1)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・成果指標からみれば、達成されていると考えるが、災害復興等特殊要素が考えられる。
- ・復興の取り組みは評価できる。しかし、復興施策の効果は長期にわたって効果を上げるべきなので、実施後のフォローが大切。
- ・庄内地域・挾間地域の成果が見えにくい事業だと思う。湯布院にTICが出来た事は評価できるが、今後の展開が課題だと思う。

2) 今後の取組に期待すること

- ・TIC完成を期に、大分県を巻き込んでの対応・対策を期待する。
- ・市内の資源・魅力を掘り起し・既存の施設 ソフトと結び付けて 新商品を開発してほしい
- ・クアオルトの進捗との比較でこのプロジェクトがやるべきことを再考すべき。またツーリズムの検討等 他テーマとの連携も強化してほしい

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	3点	問45『地域資源を活かした交流』	速報値 平均値 3.27
①市民意識 (充足)	2点	問45『地域資源を活かした交流』	速報値 平均値 2.21
②客観指標結果	5点	(5点) 平均滞在日数 H26年度 1.10日	目標 H32年度時点で 1.13日以上 実績 H29年度時点 1.02日
		(5点) 年間宿泊客数 H26年度 75.0万人	目標 H32年度時点で 77.1万人 実績 H29年度時点 80.6万人
		(5点) 観光交流者	目標 400万人 実績 H29年度 386万人
		(5点) 観光消費額	目標 14,200百万円 実績 H29年度 13,308百万円
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施	
④合計点 (総合評価)	15点		
⑤審議会 評点	3点	事業・取組が概ね達成されている	
④+⑤合計点	18点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

民官学の協働による 豊かな水環境創出プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月11日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「豊かな水環境創出事業」等		事務局

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	34点	43点			
審議会評点 (平均点)	3点 (3.4)	3点 (2.8)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・市としては取組んでいるので、一定程度評価できる。
- ・指標は現状維持 豊水会以外への広がり？
- ・予算規模が他のプロジェクトと比べ少ない。民官学協働のモデルスタイルが出来ているのに、これを全市的に広げる意図が感じられない。自然が大事・重要という本市の意向が反映できていない。観光分野もリリースやプロモーションばかりに特化せず。(そこは民間が頑張るべき)

2) 今後の取組に期待すること

- ・民間活動グループ・団体の育成にも力を入れてほしい
- ・湯布院地域のみでの取り組みだけでなく、他地域にも広まるような方法はないのか？
- ・環境問題・課題は今後重要であるとする。民間への働きかけ 市民への啓発強化を臨む

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	H29年版「市民意識調査」 問37『豊かな水資源の確保』	速報値 平均値 4.24
①市民意識 (充足)	3点	H29年版「市民意識調査」 問37『豊かな水資源の確保』	速報値 平均値 2.69
②客観指標結果	4点 (3.5)	(3点) 調査研究件数 H26年度 1件	目標 H32年度時点で 5件 実績 H29年度 2件
		(3点) 環境学習会等開催数 H26年度 10回	目標 H32年度時点で 30回 実績 H29年度 9回
		(3点) モデル事業数	目標 H32年度時点で 3事業 実績 H29年度 1事業
		(5点) 上記3つの取り組みへ担い手として参加した市民の数 H26年度 延20人	目標 H32年度時点で 延100人 実績 H29年度中 374人
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	15点		
⑤審議会 評点	3点	事業・取組が概ね達成されている	
④+⑤合計点	18点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

由布ならではの 移住・定住プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月11日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「由布市に住みたい事業」等		事務局

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	35点	47点			
審議会評点 (平均点)	4点 (3.9点)	3点 (3.1)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・民間企業として雇用増を実行している。昨年1年で50名(ベトナムからの実習生含む)雇用増を実現した。
- ・相談から移住まではある程度期間を要するものであるが、昨年度相談者のうちに既に3件移住しており、地域を含めたサポートが行われていることから評価できる。

2) 今後の取組に期待すること

- ・安心して住める住居環境 子どもの教育環境の充実が望まれる。
- ・出張・転勤で転入した人も定住への対象に加えてアプローチしてはどうか？
- ・雇用を増やそうとする事業者との連携強化も必要？
- ・アフターフォローは地域住民 移住後のフォロー施策がどれだけ成果としているかを見える化してほしい
- ・「由布ならではの」として 他地域と比べての特徴を見出したい「選ばれる要素を！」

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考	
①市民意識 (重要)	4点	H29年版「市民意識調査」 問47『UIJターン等の推進活動』	速報値 平均値 3.58	
①市民意識 (充足)	2点	H29年版「市民意識調査」 問47『UIJターン等の推進活動』	速報値 平均値 2.15	
②客観指標結果	4点 (4.25)	-	人口動態における社会動態の推移数 H26年度 △115人	目標 H32年度時点で △50人 実績 H29年度 △92人
		(5点)	・空き家バンク利用登録者数	目標 H32年度時点で 200件 実績 H29年度末 292件
		(3点)	移住コンシェルジュ人数 H27年度 1人	目標 H32年度時点で 2人 実績 H29年度末 1人
		(4点)	・空き家バンク新規登録件数	目標 年25件 実績 H29年度 22件
		(5点)	・移住・定住施策を活用した移住定住者数	目標 年45人 実績 H29年度 41人
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施		
④合計点 (総合評価)	15点			
⑤審議会 評点	3点	事業・取組が概ね達成されている		
④+⑤合計点	18点			
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている		

地域プロモーション推進プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月11日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	実績概要参照 「庄内神楽伝統継承事業」等		事務局

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	※33点	48点			
審議会評点 (平均点)	3点 (3.3)	3点 (3.2)			

※平成29年度に評価した事業については、プラン3の評価へ変更【移動】した。

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・プロモーション推進体制は？ 市内・市外 プロモーションセンターは出来ているのか？
- ・神楽は次のステージへ移るべきで、民間側がどう神楽を活用するかが重要になっている。行政はその活動の支援にまわる方が良いのでは？

2) 今後の取組に期待すること

- ・統一的なPRをどうするか？ プラン13との連携は？ 湯布院と 庄内・挾間 それぞれ ターゲットが違う？
- ・インバウンドは湯布院以外で創出するという方向性で、良いと思うが、共有化が行われていない。また湯布院は何をどうするのかの方針がない⇒トータルで市民にとってはどうしたいのかが、見えにくい

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考
①市民意識 (重要)	4点	H29年版「市民意識調査」 問46『地域の魅力を発信』	速報値 平均値 3.69
①市民意識 (充足)	3点	H29年版「市民意識調査」 問46『地域の魅力を発信』	速報値 平均値 2.50
②客観指標結果	5点	-	地域の魅力を再発見・共有するイベントの開催 目標 5回/年
		(5点)	国内向けの戦略的プロモーションの試行回数 目標 延2回/年 実績 H29年度 3回
		(5点)	国外向けの戦略的プロモーションの試行回数 目標 延2回/年 実績 H29年度 2回
		(5点)	神楽イベント参加者数 目標 H30年度に 7,000人 実績 H29年度 7,900人
③行政取組状況結果	4点	見直して事業実施	
④合計点 (総合評価)	16点		
⑤審議会 評点	3点	事業・取組が概ね達成されている	
④+⑤合計点	19点		
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている	

ゆふツーリズム推進プロジェクト

審議会評価 (ヒアリング日時)	平成30年7月10日	参加審議委員数	10名
具体的取組事業名 (ヒアリング事業)	都市農村交流推進事業		説明担当課
	クアオルト推進事業		
			農政課
			総合政策課

事業計画年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
評価年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
審議会評点合計	19点	42点			
審議会評点 (平均点)	2点 (1.9)	3点 (2.8)			

審議委員からの意見

1) 取組状況について

- ・グリーンツーリズムを通じて、新たな産業が生まれた(イチゴの加工所)事は意義深いと感じた。
- ・クアオルト事業における、ウォーキングはこれから更に周知をすすめ、由布市の観光の魅力発信と併せて進めていけば良いと思う。
- ・小学校の修学旅行の受入を想定して、受入農家数を成果指標に掲げるなど積極的な取り組みがなされている

2) 今後の取組に期待すること

- ・グリーンツーリズムの取り組みは着実に進んでいる印象を持ちました。但し中長期的な展望の検討も必要では？
- ・クアオルトはゴールを設定していない。絞り込んでいない「健康立市」ならそれを追求してほしい
- ・全体的な「ゆふツーリズム」の推進に向けての取組がまだ見えない状況なので、今後の改善を期待する

評価項目集計

評価項目	評点	参考	備考	
①市民意識 (重要)	3点	問45『地域資源を活かした交流』	速報値 平均値 3.27	
①市民意識 (充足)	2点	問45『地域資源を活かした交流』	速報値 平均値 2.21	
②客観指標結果	4点 (3.6)	-	企画、実施したツーリズムの新規メニュー数	目標 H32年度時点で 20件
		-	企画、実施に参加した市民の数	目標 H32年度時点で 延20人
		-	市民や企業向け講座の受講者数	目標 H32年度時点で 延100人
		(4点)	受入農家数(研究会員数)	目標 H32年度時点で 40人 実績 H29年度 32人
		(3点)	農泊及び体験者数	目標 H32年度時点で 3,500人 実績 H29年度 1,686人
		(4点)	市内学生農泊体験者数	目標 H32年度時点で 25人 実績 H29年度 20人
③行政取組状況結果	5点	継続して事業実施		
④合計点 (総合評価)	14点			
⑤審議会 評点	3点	事業・取組が概ね達成されている		
④+⑤合計点	17点			
⑥最終評価	B	計画がかなり達成されている		